

右詩歌合以弘文院藏本按合了

山花夕秋望

法

卷之三

山中花夕秋望

法

卷之三

山中花夕秋望

卷之三

山中花夕秋望

法

卷之三

山中花夕秋望

法

卷之三

内裏詩歌合 建保元年二月廿六日

題

山中花夕秋望

作者

藤原範時

右中辨藤原範時朝臣

權右中弁平經高朝臣

式部權大輔為長卿

大宰權師資實卿

奏議範朝卿

從三位賴範卿

右中將源通方朝臣

左近將監藤原教實

中宮大進藤原兼隆

治部大將藤原知長

右衛門權少尉藤原家光

勘解由次官平棟基

右

播戶守藤原範基朝臣

勘解由次官平宗宣

權大納言良平卿

侍從定家卿

女房 御製

從三位家衡卿

女房

女房

左衛門權少尉藤原康光

左近少將藤原為家

左近將監藤原宗時

厄兵衛權少尉源維長

丹後守藤原範宗

一番 山中花夕景

左

右中兵藤原範時朝臣

好鳥林深凌雪宿飯樵路滑負春行

右勝

播磨守藤原範基朝臣

いふふくしひひあろみと花のたより出る月ひみり

二番

左 持下

桃溪浪洗斜陽影梅嶺風芳欲夜聲

歌右 國東旅人藤原公四郎

去聲山けのむらとけのひと秋のまよ花のさし

三番

左勝

權右中辨平經高朝臣

煙霞林遠暮雲掛桃李蹊深春日岳

右

勘解由次官平宗宣

くつろい花のつよあはる也あうらう入あひれ

四番

左 持中

松栢嵐曛青寂寞峯巒花滿白參差

右

あうまのしむと決り白ひまを露よふゆゑとてのたふさ

五番

左

武部權大輔為長朝臣
一日遊春飯帶月双雲為雪老眠花

右

權大納言良平卿
云々

六番

左

烟霞洞裏旅人宿錦繡谷西居士家

右勝

雲之と風とを以て海のりさるる乃をたふさ

七番

左持上

大宰權帥資實卿
山郭風煙多下柳溪門桃李少從松

右

侍從定家
志運りて色もわらひらりや地立因り存の花乃たふせ

八番

左持上

嶺霞台岳八千丈花雨巫山十二重

右 山崎 八十八 文部 兩 五十二 首

ふらふらと雲の下に夕暮の一夜をくらせぬ人の心

九番

左 持中

泰議 範朝卿

攀艶共飯 樵客路 耽粧欲 病隱 倫家

右

御製

夕暮の雲は花を宿とて夕暮れ雲は夕暮れを宿と

十番

左

晴風拂嵐 零春露 斜日映林 混晚霞

右 勝

夕暮の雲は花を宿とて夕暮れ雲は夕暮れを宿と

十一番

左 持下

從三位 賴範卿

嶺梅遠近 隨嵐 馥野杏 淺深 秉燭分

右

從三位 家衡卿

夕暮の雲は花を宿とて夕暮れ雲は夕暮れを宿と

十二番

左 持中

子鳥 飯林 朗 曉月 為花 借宿 入春雲

右 山陰國丹波郡新入春雲

やうのやうに霧はふつと心花を運び出た心も

十三番

左 勝

右 中將源通方朝臣

霞中間雪訪松戸塵外愛山壁石徒

右

女房

はひきたるたうにわが光る形よるせうとわが心

十四番

左 勝

溪竹夕鶯藏霧宿嶺林春月出花昇

右 山陰國丹波郡新入春雲

山少の雪はわが心花を運び出た心も

十五番

左 持中

左 少辨藤原家宣

雲色皎溪憑柳宿月光銜嶺出花遲

右

女房

こぼるる雪はわが心花を運び出た心も

十六番

左 持下

春山霧白鶯高轉青嶂霞紅松獨遺

春右 春山應卜病縱覃西日欲何之
唯是春山應卜病縱覃西日欲何之
十七番

左

左近將監藤原教實

唯是春山應卜病縱覃西日欲何之

右

左衛門推少尉藤原康光

十八番

十八番

左

推丈夫哥返殘花夕巫女夢芳行雨時

右

十九番

十九番

左

中宮大進藤原兼隆

藍溪霞暖鶯聲出松洞日聽鶴睡閑

右

左近少將藤原為家

廿番

廿番

左

與月相期占綠水為花一夜宿春山

右

吉野山花をゆきとらふと衣をまきしその入あひらくは
北一番

左持下

治部大輔藤原知長

雪飛樵客漸斂地月伴隱倫獨往春

右

左近將監藤原宗時

高杉山尾上より云々をきりて孫をよる入あひらくは

北二番

左

雲病洞中雖隔艷風來溪北僅傳句

右勝

うらなを花の風と云はすうらなをよる入あひらくは

北三番

左勝

右衛門權少尉藤原家光

蘿月東昇群樹杪松嵐北送一溪花

右

左兵衛權少尉源維長

ゆはらふと云はすうらなをよる入あひらくは

北四番

左

春望錦繡谷間露夕拜蓬萊洞裏霞

春右勝 雨來柳色裏含露霞底桃顏醉和春

くまれお水りよしのつもま雲波のをらけをせ

北五番

左持下

勅解由次官平棟基

雨來柳色裏含露霞底桃顏醉和春

丹後守藤原範宗

さくら花をれ下けのきやそよをのの袖のうらむ

北六番

右

客路送薰新月影樵衣惟馥暖風辰

右勝

さくら花をれ下けのきやそよをのの袖のうらむ

一番 野外秋望

左持

範朝卿

松蓋雨時應宿客芦花風起似招人

右

女房

袖のうらむをのののきやそよをのの袖のうらむ

二番

左持上

山西霧薄斜陽透林下鹿鳴落葉頻

右

浅茅生あめぬあらし白露のうきく煙るをくひせり

三番

左 持上

資實卿

隼撃林梢飛鳥少馬嘶原上獵徒多

右

定家卿

しほぬまぬきとあめ秋のせよいくせうくく萩の上は露

四番

左 持上

殷夢夜静耳霖雨軒樂秋深落葉波

右

物まゝ集れ徒とくひぬるもぬきくもくはたの糸

五番

左

為長卿

白鷺双飛秋澤雪紅梢半出暮山雲

右 勝

良平卿

むくぬあらしあめもくくふひく葉と秋風く

六番

左 勝

風生村柳多黄落月透野松帶翠氣

氏右木面委芬白露滿山秋
為地好也かひ未きあて好風くくさ
十一番

左 持中 範時朝臣

寒野麻蹊穿霧見暮山雁陣与雲斜

右 範基朝臣

十二番

左 持下

梧楸雨深祥梢色藁溥露芳百草花

十三番

左 持下

家宣

嵐陰慘烈林園暮野色青黃錦繡秋

右

女房

十四番

左 勝

雲樹影斜村北路月花望遠郡西樓

右
 清心...
 十五番

左

經高朝臣
 林霧興來城樹僻稼雲荊盡野田閑

右

紫蘭露環東昇月紅葉嵐高西繞山

十六番

左勝

紫蘭露環東昇月紅葉嵐高西繞山

右

蘭葉露馥風千畝木葉秋紅霜一村

十七番

左持上

蘭葉露馥風千畝木葉秋紅霜一村

右

為家
 十八番

左持下

林宴親朋琴倚石野遊索意酒盈樽

右 秋雲歸洞寒臯靜白霧隔涯遠水深

月影清心水聲入耳處悠悠暮色蒼茫

北三番

左 持下

藤教實

秋雲歸洞寒臯靜白霧隔涯遠水深

右

藤康光

風色清心水聲入耳處悠悠暮色蒼茫

北四番

左 持下

野外徑幽霜後草村南地僻夕陽林

右

付無子地聲の響も如きよこひもくはくはくし

北五番

左

棟基

三危露結添虫怨一片嵐過和鹿聲

右 勝

範宗朝臣

さびしうのさびしうのさびしうのさびしうのさびしう

北六番

左

歸燕遙飛雲靜色敗蘭更卧月明程

